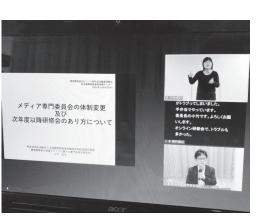


制令 害者 尚

覚障 修会がオンラインにて開催 提供施設協議会主催の令和3年度 常利活動法人全国聴覚障害者情 障 令 :害者向けソフト制作 害 和 1者情! 3 年 報 11 供 月 施設が加盟 10 日 (水) :担当職員研 全国 され 皿する特 ま 0 聴 報 定 聴

業務を主に担っている職 や字幕を付けたビデオの 報提供施設で聴 員というの [行っている研修会です。 聴覚障害者向 は、 全国の 覚障害者 け シフ 1 聴 員 制 向 覚 制 障 が 作 け 作 害者 に手 :や貸 担 毎 . 当 年 出話 情 職

口 年度は新潟県での開催 中でさまざまな課題や試 ナ感染症 この 拡大の影響 研修会では普段 で中止 予定が に行を 0 لح 新



にし 全国の て 行 を行うことが 知 0 ていました。 識 7 方 B 11 々と会えるのを毎年楽しみ る 技 術の できる唯 当 習 者 得 しかし今年度も緊 5 が 情報交換など 年 \mathcal{O} 1 研 口 修会で、 [集まっ

点としてオンライン 県聴覚障害者情報 残念ながら集合研

による ンター

初 を

 \Diamond

É

 \mathcal{O}

セ

配信

拠 潟

修は行わ

ず、

新 なら、

急事態宣言も

発令され

たこと

カン

なかったりと、い えることが出来ました。 行ってきた経験もあって、 考えるセミナーでオンライン配信を 者大会や聴覚障害者の社会的自立を があったものの、この間の近畿ろう テストを行い、 画や運営を担って 開催となりました。 講師側の機器の 者によって音量が一定でなかったり、 ンターに集まり、 担当者 かし、 当センターでは いざ始まってみると、 (専門委員) 研修会に臨みました。 トラブルで映像が出 、おり、 くつかのトラブル 機材のチ この らと新 前 研 無 エ 日 修 ーックや 派事に終 いら他 潟の 会 発言 \mathcal{O} セ 企

問題研 報保障の 対応が異なります。 の有無、 話 ブ配信なのか配信方法などによって 式の研 報保障 能だ(音声をきちんと伝えな や要約筆記の情報保障や画 オンライン配信では現場ごとに手 修会の内容については、 ないですが) 要約筆記 究会の協力の下、 を行い 要約筆記には全国 修だと遠 オンライン会議なの ました。 者が自宅 と感じました。 隔 また、 情 オンライン から遠隔で 新 今回の E報保障 潟ではな 要約筆記 座学 かライ 面 共 ŧ 情 有 لح

> 字幕CM協議会の 義塾大学特任教授の川森 リティをテーマに、 ただきまし 講演と字幕CMの取り組みにつ セシビリティ」をテー 心として障害者の 方々に話をし 「障害者の 情 報アク マに、 雅仁 情 セ ** \ 氏 慶應 報ア シビ 7 て、 \mathcal{O}

だき、 を考えさせられました。 用することで障害者支援が広がること の重要な要素であり、 てきた経験から、 際的な仕様の標準化の取り組みを行 の必要性、 手話サービス等に関して国内および 川森氏については、 \widehat{H} ICTは情報アクセシビリティ 702) や電話リレー、 今後について話をしていた 海外の取り組みやそ これまでI 新しい技術を利 遠隔 P T 玉

関心を持たれていました。 した。 С 向けて立ち上げて取り組んでいる字幕 内の情報アクセシビリティの取り ては独自の制限やルールがあることに 過 M協議会の方々から、 一つとして、 字幕CMの取り組みについては、 制作方法などについて話があ 参加者からはCMの字幕につ 業界で普及・標準化に 取り組みや経 りま 組 11 玉

センターの取り組みの発表では巡 る様子が伝わり、 イブラリー また開催地、 -や動 画制 新潟県聴覚障害者 他施設の実践を 作に力を入れて 一回ラ 情

ことが必要であると感じまし 「専門委員会の体制変更 及

たように専門委員の選出方法やブ て」ということで前回記事にもあっ び次年度以降研 得られたようでした。 ックによる研修会の実施などの 担当者には概ね理 修会の あり方につ 解 方 V

これまで、この研修会の企画や 谉

ます。

形で役割を担うことで、 体制の中で、 することが出来ました。 験を通して多くの方とつながり交流 営を担ってきましたが、これ を深めていっていただきたいと思 全国の担当者が様々な 経験や交流 今後新しい らの

専任手話通 滋賀県専任手話通訳者協議会 記者 のしごとって何 研修開催 5

ら、テーマ 浅く、 ただきました。 にお勤めの岩谷誠司さんにご講義い を選び、 ない設置通訳者が何名かいることか 害者センター 月9日 (火) に滋賀県立聴覚障 専任手話通訳者になって間も 全通 手話通訳者としても経験が 「専任手話通訳者のしごと」 研を通して向日市役所 研修室にて研修を行い

取り組 とで、 修を実施。 て伺いました。 話言語条例施行後の取り組 小さい市というお話から始まり、 題や補聴 知 向 日市は、 手話を知ってもらうきっ み、 市役所職員全員で手話学習に 様々な人の協力を得るこ 器の装用体験等 聞こえない また手話動 滋賀県の豊郷町よりも まずは 画 市民に手話を 人の暮らしの 手話マン の手話研 みについ かけ 手

になったことも印象的でした。

残り、 を感じた、 加者からも好評で、 等のタイミングを逃さない。 個 制度が大切で、たとえ今の通 ができた、 を解決する方法になる) した上で新たな制度をつくる。 課題を施策に反映する②課題 る必要性のポイントは①地 人がいなくなったとしても制度は 専任手話通訳者が役所に 事業を継続でき、 専任通訳者の責任の重さ 仕事の振 ③法律改正 地 域 域 配 め返り 研修参 ~ 訳者 どを把握 置され の生活 0 (この 課題

署が9月に移転

解 0

体工

事

セン

ター

0

隣にあ

んでいます。

聾話学校でも使われてい

義な研修とな る気がでたな ました。 大変有意 B

今年度も頸肩腕検診を実施しました

第一次検診 ものです。 登録者全員を対象に実施してい

当法人が主体となり、 動を続ける為の取組みとして毎 訳者と登録要約筆記者が健康に活 しました。この検診は県と各市 ^ 工草津にて頸肩腕検診を実施 . (木)、 22 日 登録手話 . 金

と専任手話通訳者全員が第二次検 らに検診が必要だと判断された方 員と専任手話通訳者全員を対象に 原医師に診断していただき、 い、この内容を滋賀医科大学の 検診は二段階方式で、 (スクリーニング) を 登録者 さ 全

> が第二次検診を受けまし 診を受けます。 今年 度 は 75

月21日

どのように対応していくかが 作業環境を含む働き方など、 のコーディネートや職場での 繋がります。 で考え改善していくことが求 回復の鍵となるため、 者個人の問題とせず、 ての人達の人権を守ることに 思疎通支援事業を利用する全 健康に活動できることは、 手話通訳者や要約筆記 検診結果を受診 みんな 派遣 者 意 元

る

センター周辺の様子が変わります

t,

した。

なってしま でも薄暗く



われ、



12 月上旬頃

体 験する防災学習 聴覚障害者センターで実施

まし 災 覚 グ学習を 月 障 害者セ 14 -験型 日 聴 開 昨 [月 年 催



研究所の皆さんです。

不部との

共 催

講師はNPO法人し

が

、ち防災

:害者災害救

て県

É を快適に、 - ル椅子、 元からの冷えは心 プに分かれて順に体験 加者41名が3つの A O Bのブースではペットボト チラシの食器作 新聞紙スリッパ、 ブースは避難所の過ご 何をするかというと、 臓 ブー に負担をか いしてい りです。 ス ダン を き

ŧ

交替で心肺蘇生の練習 空のペ ボト す。 生 気 た心 0) 圧 構 は を \mathcal{L} 練 ル 呼 心疲 ット \mathcal{O} 吸 肺れれ習 肺 利 まは で蘇用空

> もやい結び、 たりしました。 ないのを実感しました。 吹き返すまで続くのです。 すりにうまく結べたら引っ張って確 いので、これも笑い事ではありませ タンカも体験しました。今年はトレー ん。Cのブースは紐結びです。 して作り、 ーなどの上着を2本のポー 壁が抜けなくてよかったです。 お互いに持ち上げてもらっ 巻結び。センターの手 軽い人ばかりではな さらに応急 遊 真結び、 ルに びで 通

有しました。災害に備えて、 催してほしいと参 を身に付けよう。 できることや誰かを助けられる方法 最後は体験して分かったことを共 そのために 加者の要望も熱 自分で 毎年開

え



手すりにロープを巻結び

サンドイッチになにはさむ? 「ぜんぶ!」だって。



子どもの興味を引き付ける 保育士の技!

ライオンの鳴き声も文字で表 示。身振りもすごい。怖い!

手話で絵本を楽しむクリスマス会 ~聴覚障害児及び保護者サポ j ŀ

事

S

た。 クトを進め、 感染拡大で自 さんと家族が集まりました。 せを作り、 で 久しぶりに 12 月 5 日 (日) 県内 手 粛続きの間にプ 一話で絵ー 日 聴覚障 は 0 初 聴覚障害 本の 披 |害者セ 露 読 0 ノロジェ み聞 場 コ 0 ロナ お子 ター で カン

お子さんたちの別れました。前半の ちは最後まで集中して取り組 学校教諭の ることで子どもも手話を覚えるの 合わせて小さい手も ができるだけ さん12名、 が印象的でした。 スタッフ14名は手 加 者は 後半は絵本の読み聞 前半のプラバンづくりで 資格を持 10家族の保護者 1 でなく、 楽しそうな声 から 「繰り返し表現 べち、 動 11 保育士 歳まで き始めて 話や手話 お子さんた 14 のていた が聞こ 点んでく 一や養護 名 \mathcal{O} でし お子 通

場づ

くり

交流でき

です。 同 と不安がらずに自然体で過ごせて、 け と話してくれ とお 言ってプレゼントをもらった子ども じ仲間 きます。 をめざした取り組みを充実させて 業では今後も手話と言葉の 嬉しそうに「はやく開けたいよぉ。」 最後はお楽しみの は母さん お行 お子さんが「聞こえるかな」 儀よく一 \mathcal{O} ました。 声 が 嬉 列に並び名前 サンタさん L このサポー カコ 0 たで 結び 登 す。



きこえない人、きこえにくい人のための暮らしの情報講座を行いました

当センターでは、滋賀県より「聴覚障害者生活訓練事業」の委託を受けており、その事業の1つである「日曜教室」を実施しています。これは、滋賀県内の聴覚障害者を対象に、日常生活に必要な知識や情報などを学ぶ教室です。

今回は11月7日(日)に聴覚障害者センターにて「高齢福祉サービスって?」~ほしいサービスを考えよう~というテーマで学びました。講師には、特別養護老人ホー



ムけやきの杜施設長の藤居眞 氏をお迎えしました。

高齢福祉サービスの紹介や 説明などがメインの講義にな る予定でしたが、10年後はど んな生活をしていたいかの話 の段階で質問や意見が多くあ り、それに対し丁寧に回答い



ただいたため、本題に入る前に時間切れとなりました。 看取りや延命治療の話に時間を費やされ、参加者も真剣 に聞き入っていました。また、法人セミナーに参加され た際の話題にも触れられていました。

孤独死を防ぐためには社会参加が必要との考えを繰り返し訴えられ、たとえ介護を受ける立場になっても、構われるようにすることが大切との話が印象的でした。

介護保険サービスの話を期待していた参加者もいましたので、今度はそちらに特化した講義の機会を設けたい と思います。

きこえの相談 ~長浜市で開催~

毎月1回土曜日に「きこえの相談」を実施しています。この事業は、難聴者や中途失聴者の聞こえの程度を検査するほか、聞こえに関する不安や悩みについての助言や相談窓口としての役割を担っており、毎年40~50人ほどの方々に利用いただいています。

11月13日には長浜まちづくりセンター(長浜市)を会場に開催し、長浜市から3名の相談者がありました。

補聴器を装用してもよく聞こえないとの相談者には、聴力検査やことばの聞き取り検査を実施し、元々の聴力の原因か補聴器の調整の問題かの切り分けを行いました。

電話が聞き取りづらいとの相談者には、音量を 増幅する機器の紹介や、携帯電話によっては通話 相手の言葉を文字化するアプリがあるため、その紹介を行いました。

毎年相談に訪れる方からは、聴力検査の結果が 昨年とほぼ変わらず安心したとの声も聞かれまし た。相談者はみな聞こえづらさを理解してもらえ たという安心感や、困りごとを話す中で心が軽く なられたようで、笑顔で会場を後にしました。

<今後の予定>

2022 年 2 月 5 日 (土) 10 時 00 分~ 16 時 00 分 滋賀県立聴覚障害者センター

2022 年 3 月 5 日(土)10 時 00 分~16 時 00 分 滋賀県立聴覚障害者センター

※無料相談・事前予約制です。

タツノオトシゴ

愛犬との散歩でふと夜空を見上げると、冬の寒い日は月や星がきれいに輪郭鮮やかに輝いて見える。思わず「キレイ」と言葉に出でしまうほどに。そんな時に思い出すのが、3.11のことである。被災した知り合いが、命からがら逃げてたどりついた避難所で見上げた夜空がとてもきれいだったと言っていた。あの日は雪がちらつく寒い日で、夜は冷え込みが厳しくとても寒くて、そして星が悲しいほどにきれいに輝いていたと。自然は美しく感動も癒しも与えてくれる。だが、とても残酷でもある。今も誰もが予想もしていなかったことが起こっている。長い歴史からみると、この時代はこんなことがあったと言える日がくるのだろう。今は、この混とんとした日々が通りすぎるのをじっと待っている。 (y.i)